

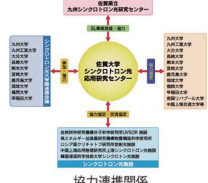
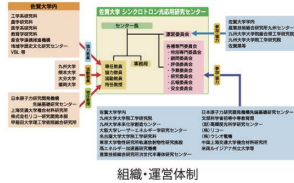
佐賀大学シンクロtron光応用研究センターの現状



組織・運営体制・協力連携関係

佐賀大学シンクロtron光応用研究センターは、佐賀県知事から佐賀大学長への佐賀県シンクロtron光応用施設整備事業への支援協力要請に応じて、シンクロtron光を利用する研究開発の促進、人材育成ならびに地域活性化などに学術的立場から支援協力するとともに、九州地域の大学や国内外の研究教育機関との連携によるシンクロtron光応用研究および関連する研究教育活動などを行うために発足した。

これまでに、佐賀大学シンクロtron光応用研究センターの整備、学術研究用ビームラインの共同開発、シンクロtron光応用研究に関する教育の充実、その他のシンクロtron光応用研究の促進のために、九州地域の大学を中心に国内外の研究機関と協力・連携を進めてきた。



プロジェクト研究

文部科学省連携融合事業
「シンクロtron光を利用した佐賀県等との一体化による先導的工学的基盤研究」(H17-19年度)

文部科学省連携融合事業
「バイオ・ナノ・環境イノベーション技術の研究開発」(H20-24年度)

「広域連携融合によるシンクロtron光を利用した
「シンクロtron光活用の広域連携を用いた次世代イノベーション技術開発と人材育成」(H25年度)

文部科学省先端研究施設共用イノベーション創出事業
「ナノテクノロジー・ネットワーク」(H19-23年度)

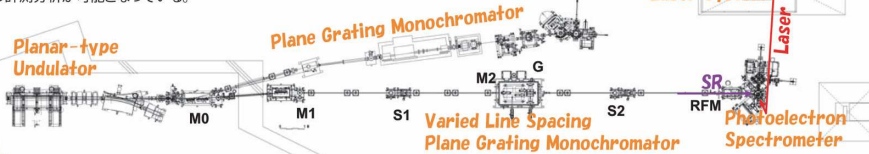
九州地区ナノテクノロジー拠点ネットワーク ～シンクロtron放射光を用いたナノ計測・分析支援～
など、各種競争的研究資金を活用したプロジェクト研究・研究支援を実施



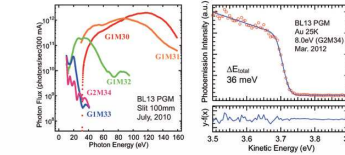
シンクロtron光活用の広域連携を用いた次世代イノベーション技術開発と人材育成

ビームライン

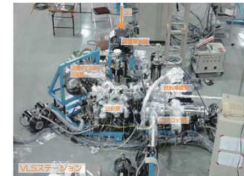
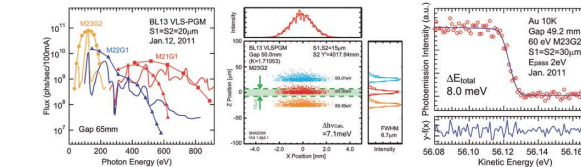
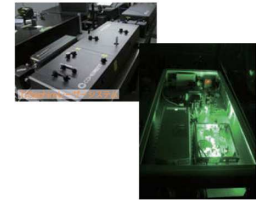
BL13ナノスケール表面界面ダイナミクスビームラインは平成14年度補正予算により建設された。本ビームラインは、アンジュレータ光を利用するVLSステーションと偏向部からのシンクロtron光を利用するPGMステーションから構成されている。平成22年12月には平面型アンジュレータ装置および同制御装置などを更新した。現在、約34~850eVと2~150eVのエネルギー範囲のシンクロtron光とレーザーを用いた光電子分光法、吸収、蛍光測定などを主な手法として、各種機能性物質の表面界面の電子状態分析を行うとともに、光誘起現象の解明や光機能材料の計測分析が可能となっている。



Number of periods: 24
Period: 85 mm
Total length: 2016 mm
Magnat size: 20x20x126W
Remnant Field: 1.2T
Deflection parameter K: 3.6 - 0.54
(gap 31 - 80 mm, hv₁₄ 29 - 207eV)



Ti:Sapphire Laser System



最近の成果から

